

対象年度		令和 2年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート										
事務事業名		広域連携の推進						予算事業名		筑西広域市町村圏事務組合分賦金				
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令					
				02	01	07	1901	経常経費						
総合計画体系		5協働で進める持続可能なまちの実現(自治・行財政運営)						事業の区分		主要事業				
		5-2自立した行政経営の確立（行財政運営・広域連携）												
		④広域連携の推進								企画政策課				
		1広域行政の推進						担当課係等		企画調整係				
事業期間		継続（昭和45年度～令和 2年度）												
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】							
・近隣市町村と連携を図ることで、市民サービスが向上されるとともに、各構成市の行政運営が効率化される。							・国による支援施策の拡充や、単独では解決が困難な課題が増加傾向にあることから、当該事業の導入あるいは推進を図っている。 他市においても、事業の導入が増加傾向にある。							
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】							【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】							
・筑西広域市町村圏事務組合へ、分賦金の支払いを行うとともに、幹事会、定例会などの組合運営に携わり、活動を支援する。 ・筑西地方拠点都市については、関係市と会議を開催し、行政サービスの向上に向けた共通の課題の検討を進める。							・市民 ・結城市の事務事業の一部							
							【事業をとりまく環境の変化】 ・人口減少や市民ニーズの多様化が進むなか、既存の資源では、それに応える市民サービスの提供が困難な状況に陥っている。市町村合併という手段だけでなく、広域的な連携制度によって、各構成自治体の行政運営の効率化や市民サービスの向上が期待できることから、今後さらに発展した取り組みが求められている。							
【令和 2年度 事業内容】					【令和 3年度 事業内容】					【令和 4年度 事業内容】				
筑西広域市町村圏事務組合の活用 筑西地方拠点都市整備推進計画の推進 新たな広域連携の検討					筑西広域市町村圏事務組合の活用 筑西地方拠点都市整備推進計画の推進 新たな広域連携の検討					筑西広域市町村圏事務組合の活用 筑西地方拠点都市整備推進計画の推進 新たな広域連携の検討				
■事業費														
				H30年度		R01年度								
財 源 内 訳	国	庫	支	出	金	0	0							
	県		支	出	金	0	0							
	地		方		債	0	0							
	そ		の		他	0	0							
	一		般	財	源	85,699	94,204							
歳入計（千円）				85,699		94,204								
歳 出 内 訳	節（番号＋名称）				金額（千円）		金額（千円）							
	19 負担金補助及び交付金				85,699		94,204							
歳出計（千円）（A）				85,699		94,204								
伸び率（％）						9.92								
備 考	総合計画139ページ 予算書41ページ													

平成30年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H30年度	R01年度	R02年度
活動 指標	筑西広域市町村圏事務組合幹事会等開催回数	回	目標	4.00	4.00	4.00
			実績	4.00	0.00	0.00
	筑西拠点都市ワーキングチーム会議開催数	回	目標	3.00	3.00	3.00
			実績	1.00	0.00	0.00
成果 指標	筑西広域市町村圏事務組合での連携事業数	事業	目標	8.00	8.00	8.00
			実績	8.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	広域事務組合で行うことにより効率性を高められているので、引き続き必要性は高い。また、定住自立圏構想などの取り組みも求められてきている。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	広域事務組合は、関係3市が拠出した資金で運営されている特別地方公共団体であり、実施主体として妥当である。
	手段の妥当性	A 妥当である	関係法令に則った運営を行っており、手段は妥当である。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	3市の面積が広域なこともあり、サービスを提供する施設までの距離によっては、利便性に差異が生じてします。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	現状では、連携事業の増加までは至っていないが、検討は進んでいる。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	各取り組みについて、定期的に会議を開催し、事業を推進している。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
筑西広域市町村圏事務組合については、独立した組織であり、実施事業についても定格化してきてる。新たな連携事業の模索や既存サービスの充実、課題の共通認識などを図るにあたっては、事務担当レベルでの情報共有の機会を持つ必要があり、課題となっている。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
筑西広域市町村圏事務組合については、平成27年度から筑西広域市町村圏企画財政事務担当者会議を開催し、市町村間の担当者レベルの連携を密にしている。筑西地方拠点都市については、共通課題に向けた検討を行う。			

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 消防やごみ処理等を近隣自治体と共同で実施し、事務効率化を図ることは重要である。少子高齢社会が急速に進む中、単独自治体では解決が困難な行政課題に対し、広域的に自治体が連携して取り組むことは有効であるため、今後にも必要に応じ様々な連携を検討していく。
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了
企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。